

薬の選択が 医療費抑制につながる時代

✕ ジェネリック医薬品と薬剤師の役割 ✕



「ジェネリック医薬品に関することや分からないことは、気軽に相談してほしい」と話す西島先生(右)と和田由樹健康リポーター

病院等や薬局、TVC Mなどで最近よく耳にする「ジェネリック医薬品」。この医薬品は、これまで効き目や安全性が実証されてきたお薬と同等と認められ、かつ低価格なお薬のことです。国保でHOT情報では、先発医薬品との違いや消費者が利用する際のメリット、また薬学教育が6年制に移行したことで改めて問われる薬剤師の役割等について、(社)鹿児島県薬剤師会理事でハート薬局局長の西島徹先生にお話を伺い、7月14日と21日の2週にわたってお伝えしました。

価格は先発医薬品の約半分程度

——ジェネリック医薬品とはどんな医薬品ですか？
西島先生／先発医薬品の特許期間終了後に製造される医薬品で、効き目や安全性等が先発医薬品と同じであると、厚生労働省が認めた医薬品のことです。

先発医薬品と違う点はあるのでしょうか？

西島先生／最も大きな違いは「価格」です。先発医薬品は開発に10~15年の歳月と数百億円もの投資が必要であるのに対し、ジェネリック医薬品の開発期間は3年程度、費用も抑えられています。そのため、価格は平均すると先発医薬品の約半分程度。患者さんの薬代負担が減り、特に長期間にわたって薬を使用している方には大きなメリットがあります。また、特許期間が過ぎた薬が全てジェネリック医薬品に置き換えられた場合、日本の医療費は年間で約1兆円も節約できると言われているんですよ。私たちが納める健康保険料の上昇を抑制する効果もあるのです。

海外では、どれくらい普及しているのですか？

西島先生／2007年のデータを見

各国のジェネリック医薬品シェア

国名	ジェネリック医薬品シェア(数量)
アメリカ	67.0%
イギリス	62.0%
ドイツ	59.0%
フランス	20.4%
日本	18.7%

出典：厚生労働省 2007年9月薬価調査より

てみると、アメリカやイギリス、ドイツでは、その使用量が医薬品使用量全体の50%を越えているのに対し、日本では18.7%と、まだまだシェアが低い状況にあります。

安全性や品質は同じ

——その原因の一つに、ジェネリック医薬品の品質に対する不安があるように思われますが…。

西島先生／その成分は、特許期間が満了するまで多くの患者さんに使用されて、有効性や安全性が確認されている先発医薬品と同じものです。さらに、医薬品の製造や品質管理は薬事法などで厳しく決められており、その規制の下で製造されているので、品質に大きな違いはないと考えられます。ただ、製品によっては大きさや味、においを改善して飲みやすくしたり、保存性を高めるなど、消費者にとって利用し

やすいように工夫されたものもあります。

——では、ジェネリック医薬品を利用したいときは、どうすればよいですか？

西島先生／かかりつけの医師か薬剤師にお気軽にご相談ください。また、このような「ジェネリック医薬品希望カード」(写真左)もあります。これを病院や薬局で受付の際に、診察券あるいは処方せんと一緒に提示することで、利用の意思を伝えることができます。

——どんな薬でもジェネリック医薬品に換えてもらえるのですか？



真剣な表情で調剤指導を行う西島先生と薬学実務実習生の東中川さん



ジェネリック医薬品(下段)と先発医薬品(上段)の安全性や品質は変わらない。右のようなカードを提示することで利用の意思を伝えることができる

西島先生／全ての先発医薬品に対してジェネリック医薬品があるわけではありません。また、使用量などを細かく調整する薬は変更が難しい場合もありますので、薬局の薬剤師に遠慮なくご相談ください。

より高度な知識が要求される薬剤師

——さて、平成18年から薬学教育6年制がスタートしたと伺いましたが、どのような背景があるのでしょうか？

西島先生／医学や薬学の進歩によって、医薬品の取り扱いについてもより高度で、広範囲の専門知識や技

能が要求されるようになってきました。4年間ではそれを修得するための時間が十分でなかったことから、薬剤師養成のための教育が2年間増えたのです。

——ところで、こちらの薬局にも現在、薬学実務実習生がいらつしやるそうですね。どのようなことを学んでいるのですか？

西島先生／5年生に進級した薬学生は指導薬剤師の下、病院および薬局でそれぞれ2カ月半ずつ、合計5カ月間の実務実習を行います。簡単に言うと、患者さんへの対応を含めた薬剤師業務全般を学ぶのです。

——薬剤師業務にはどのようなものがありますか？

西島先生／わたしたちは専門的な知識や技能を生かし、次のような3つの役割が求められます。

① 医薬品の製造、調剤、供給を行う
—— 保険薬局での処方せんに基づく調剤や、健康相談等に基づく一般医薬品の販売② 国民の健康増進や公衆衛生への寄与—— 各種保健相談や地域の健康教室の開催。幼稚園や小学校等の飲料水やプールの水質検査、教室の空気検査など、

学校の環境衛生維持に努める③ 医学や薬学の成果を吸収し、国民の健康福祉に役立てる—— 医学や薬学は日進月歩。学会や研修会等に積極的に参加し、常に最新の情報を学び、医薬品の適正使用を推進するための知識や技能を修得する。

——最後に、現在こちらで実務を学んでいる九州保健福祉大学薬学部の中中川華愛さん。実習はいかがですか？

東中川さん／大学では経験できないことに取り組み、大変勉強になっています。しっかりと勉強して、患者さんや地域の皆さんから信頼される薬剤師になりたいですね。

わたしたちがジェネリック医薬品を選択することで、医療費の節約にもつながります。使用に対して不安なことは気軽に薬局等で相談してはいかがでしょうか？ また、薬剤師に求められる役割が次第に高度化し、養成期間も2年間延長されています。学んだ技能や知識を十分に生かし、地域のために活躍していただきたいと思いますね。